

企画専門委員会の活動

—教育訓練講習会アンケート結果とその考察—

第27期 放射線安全取扱部会 企画専門委員会

1. はじめに

これまで企画専門委員会では、教育訓練の充実を重要テーマの1つとしてとらえ、様々な活動を行ってきた。その一環として、平成17年度より、放射線安全取扱部会の各支部で開催している教育訓練講習会において、受講者を対象にアンケート調査を行い、その結果の解析を行ってきた。

本稿では、平成25年4～5月に全国で開催された計17回（新規教育9回，再教育8回）の教育訓練講習会で得られた前記アンケート調査の結果を報告する。数値による評価の結果だけでなく、寄せられた貴重なコメントについても解析し、講習会の更なる充実をどう図るかについて考察したい。

2. 受講者の状況

平成25年度の調査対象講習会における受講者総数は881名で、そのうちの約65%が事業所における放射線利用者で、約20%が主任者・管理担当者であった（図1）。また所属する事業所の形態は、約55%が民間機関で、続いて医療機関，研究機関，教育機関の順に多かった（図2）。受講者の放射線利用形態は、密封線源と放射線発生装置が各々約37%と約33%と半数以上を占め、非密封線源は約18%と少なかった（図3）。

受講理由として最も多かったのは、「事業所からの指示」によるもので、全体の約85%を

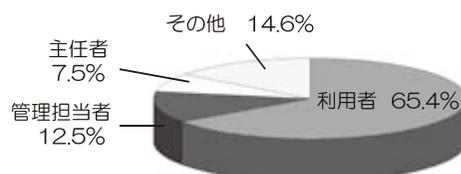


図1 事業所での立場

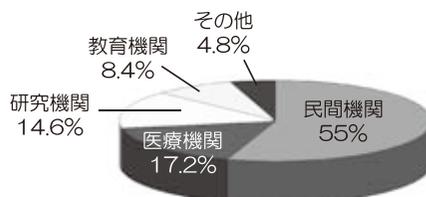


図2 事業形態

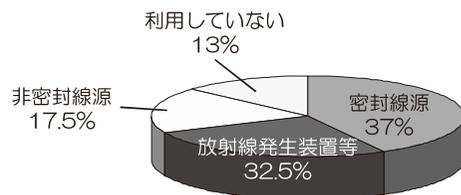


図3 利用形態

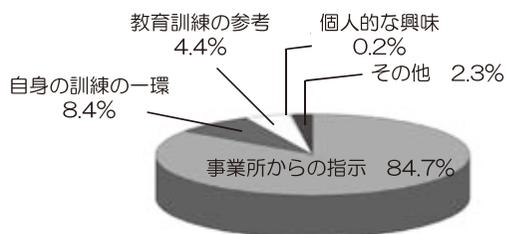


図4 受講理由

占めた(図4)。なお、「自身の訓練」や「教育訓練の参考」といった向学心によるものが10%以上を占めているのは興味深い(図4)。広範囲な広報などにより、このような需要を掘り起こせば、受講者数を更に伸ばすことが可能かもしれない。

3. 講習会の5段階評価(図5)

講習会ごとに講義内容及び配布資料に対する評価を5段階で行ってもらった。平成25年度の調査対象講習会(全17回)に関しては、平均値で講義内容3.91, 配布資料3.84と評価された。過去4年間の同時期に行われた調査結果と比較して大きな変動もなく、同様の傾向にあったため、一定の教育水準は維持できていると考えられる。しかしながら、見方を変えると講習会の質は特に上がっていないともいえる。

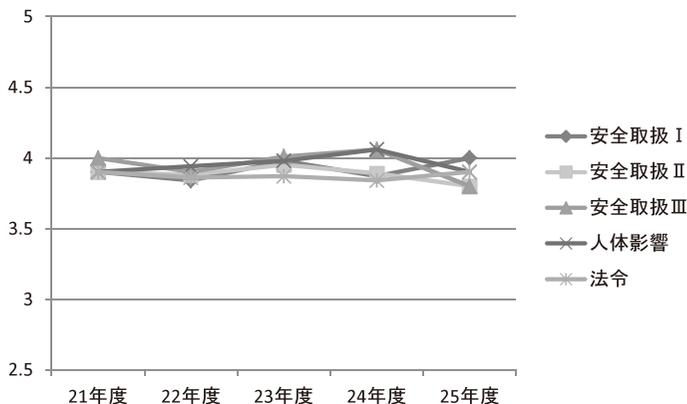


図5 最近5年間の5段階評価

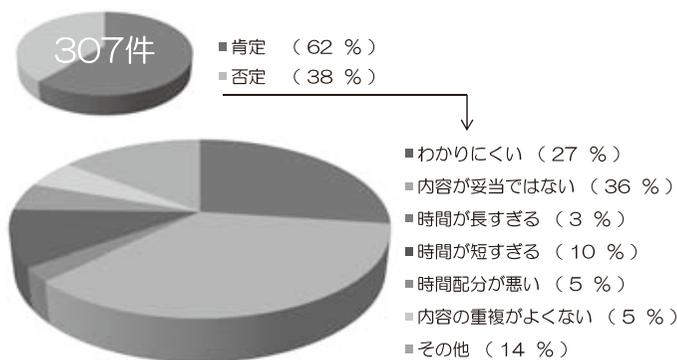


図6 講義内容に関するコメント

4. コメント

受講者の数に対する割合は低いものの、多数のコメントが得られている。これらの解析は、講習会の更なる充実に有益であると考えられる。講義内容、講義資料及び講習会場に関するものに分類し、この中の特に否定的な意見に注目した。

4.1 講義内容(図6)

307件のコメントが得られ、その約38%が否定的なもので、「わかりにくい」と「内容が妥当ではない」という意見がほとんどであった。前者の中に含まれているものには、「声が小さい」「滑舌が悪い」「早口すぎる」「やる気が感

じられない」などプレゼンテーションのスキル不足への指摘が多く見られた。また後者の「内容が妥当でない」との指摘は再教育において多く、「専門的すぎる」「特別講演は不要」「タイトルと合致していない」などがあつた。また、件数は少ないものの1日の講義の中で内容の重複が見られるとの指摘も見受けられた。また、「時間配分が悪い」という指摘も設定された時間に対する情報量や進行のスピードの調整など講演技術の問題であると捉えることができる。なお、「短すぎる」「長すぎる」という不満もあるが、法令に基づく講義時間設定であることを

主任者 コーナー

最初に述べて理解を促すことが必要かもしれない。

講演スキルの改善は、講師の教育が必要となり難しい面もあるが、基本的な講演手引きの作成など、その対策の検討は可能であろう。また内容の重複は、事前の調整で確実に防ぐことができるはずである。

4.2 講義資料 (図7)

124件のコメントが得られ、その約85%が否定的なもので、このうちの約70%が「見にくい・わかりにくい」「文字・図が小さい」という資料の構成・レイアウトに関する不満であった。講師が独自に作成した資料も多いため、その改善は容易ではないが、少なくとも新規教育においてはより受講者の視点に立った統一的資料の作成は検討すべきと思われる。また、カラー印刷や電子媒体での提供を希望するコメントも各々約10%ずつあった。これらは否定的な意見というよりは、更なるサービス充実の要望と捉えるべきであろう。なお、配布資料に関しては書込みがしやすい白ベースでの印刷を求める意見もわずかではあるが見られた。

以上の点を考慮し対策を講じることで、配布資料だけではなく、講義内容に対する評価もより高くなると思われる。

4.3 講習会場 (図8)

65件のコメントが得られ、その約95%が否定的なもので、このうちの約50%が、「寒すぎる」「暑すぎる」など会場の空調管理に対する不満であった。また「会場が狭い」「椅子が硬い」「マイクの調子が悪い」など設備や機材に

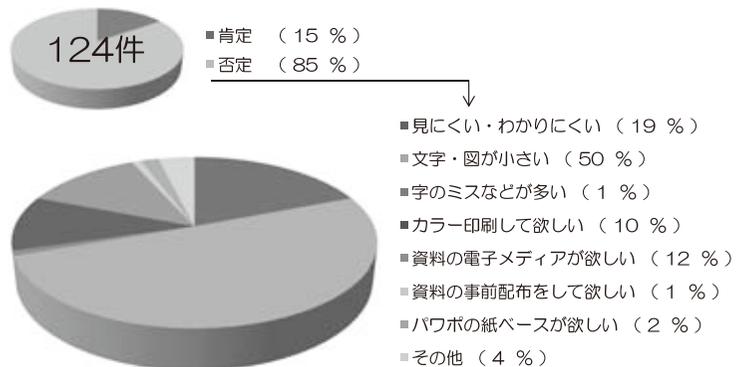


図7 講義資料に関するコメント

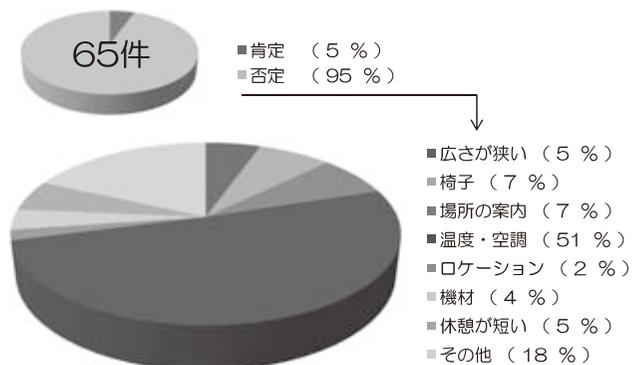


図8 講習会場に関するコメント

対するクレームも多く見られた。さらに「場所がわかりにくい」「案内図がほしい」といったアクセス情報の不足も指摘されている。経費面を考えると会場の選定には制限があり、設備等に関する不満の解消は十分にはできないと思われるが、使用する機材の状態やアクセス法の前調査はある程度可能であり、改善の可能性について検討はすべきであろう。なお、約18%を占めるその他には「話をさえぎる質問者を何とかしてほしい」「座長は不要である」といった会の進め方への不満や「非会員に対してもアナウンスがほしい」「東京での開催を増やしてほしい」「原子力施設の見学を入れてほしい」と

いった開催方針に関する要望が含まれている。

以上のコメントから、受講者の立場に立って会の準備・進行を行うことが重要であると再認識できる。

5. おわりに

5段階評価による結果だけに注目すれば概ね良好であり、講義内容とその資料に大きな問題はないと結論付けられるかもしれない。しかし

ながら、講習会の更なる充実を目指すならば、受講者が時間を割いて残してくれた貴重なコメントに着目し、得られた情報を参考に新たな試みを検討することは有益であろう。見いだされた問題点の解消に向け努力することにより、教育効果は高まり、受講者の評価もより高いものになると期待できる。今後の講習会実施の参考になれば幸いである。

平成 26 年春 放射線安全取扱部会の分科会活動が変わります！

放射線安全取扱部会企画専門委員会

放射線取扱主任者部会の時代より、支部活動とともにテーマごとに放射線安全に関わる活動を展開してきた分科会活動を積極的に支援し、その実質性を高めるために、平成 26 年度から新たな放射線安全取扱部会の分科会活動がスタートします。

ポイント 1

テーマを絞って単年度ごとの活動とし、得られた成果の公表や水平展開のための予算を申請することができます。

ポイント 2

次年度の継続は可能ですが、重要度の高い時限テーマに関しては、部会直轄のワーキンググループとして継続発展を支援します。

ポイント 3

分科会の設置申請は、部会員であれば誰でもできます。アイデアの段階でも企画委員会をご相談をお受けしますので、放射線安全取扱部会事務局 (gakujutsu@jrias.or.jp) までお問い合わせください。また、一人一人の部会員からの提案に加え、企画専門委員会からもテーマを提案し、参加を呼びかけていきます。

新しくなった分科会活動を、どうぞ積極的にご利用ください。

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】 上養義朋 (委員長)、池本祐志、小野孝二、川辺 陸、鈴木朗史、桧垣正吾、宮本昌明、吉田浩子